



---

# CSR Report 2016

---

UDトラックス株式会社

---

# CSR Report 2016

## 編集方針

UDトラックスは、持続可能な社会の実現に向けて、当社が果たすべきCSR(企業の社会的責任)に対する考え方や取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただくために、「CSRレポート」を発刊しています。本2016年度版は、ロードサポートサービスと新興国における事業展開についての「特集」を設けるとともに、報告パートでは当社が重視する7つの活動テーマごとに取り組みを紹介しています。

## ■報告対象範囲

UDトラックス株式会社を対象としていますが、一部項目では、UDトラックスブランドとしてボルボ・グループが展開している活動についても報告しています。

## ■報告対象期間

2015年度(2015年1月1日～2015年12月31日)。ただし、一部、それ以前の経緯やデータ、2016年度の活動、将来の活動予定も報告しています。

## ■発行年月

2016年5月

## 目次

トップメッセージ	02
UDトラックスについて	03
CSRマネジメント	05
特集1	07

## 燃費と稼働率、安心感のさらなる向上へ。

—— 進化する「UDロードサポート」



## 特集2

09

## アジアからアフリカへ、 新たなステージで広がる 「クエスター」の可能性。



## ハイライト 2015

10

CSR活動報告①:さらなる品質向上へ

11

CSR活動報告②:お客様満足の向上をめざして

13

CSR活動報告③:ビジネスパートナーとの連携のために

14

CSR活動報告④:安全性を追求して

15

CSR活動報告⑤:従業員の力を活かすために

17

CSR活動報告⑥:社会の一員として

19

CSR活動報告⑦:環境経営の推進に向けて

21

環境データ

## おかげさまで創立80年。 これからも輸送におけるソリューションの開発と提案に 注力してまいります。

2015年、UDトラックスは創立80周年を迎えました。これもひとえに、当社の製品をご愛顧いただいているお客様、事業活動を支えてくださっているビジネスパートナーや地域の皆様、そしてさまざまな場面でご理解、ご協力をいただいている多くの方々のおかげと心より感謝申し上げます。

1935年の創立以来、UDトラックスは「時代が求めるトラックを造る」というビジョンの実現のために、常にお客様の声に耳を傾け、社会の変化に柔軟に対応することに努めてきました。そして、お客様へのソリューションを見だし、提供することによって「ビジネスパートナー」として選ばれる企業になることをめざしてきました。

その実践として、2015年5月には、UDトラックスの歴史や商品などの体験施設「UDエクスペリエンス・センター」を新設しました。従来に比べて大幅に拡大したスペースには車両やエンジンの展示だけでなく、稼働率向上やコスト削減といったソリューションを紹介するコーナーを設けました。また隣接したテストコースでは、トラックの試乗とともに省燃費運転の解析サービスなども体験していただけます。今まで以上に大勢のお客様をお迎えして充実したプログラムをご提供できる体制が整いました。

また7月には、本社新社屋が竣工し、管理部門、開発部門、販売部門が集結しました。部門の壁を取り払い社内の連携を効率化することで業務の質を高め、さらにより良い製品の開発やサービスの提供、お問い合わせなどへの迅速で精度の高い対応につながるものと確信しています。

さらに、秋に開催された“東京モーターショー2015”では、「スマートロジスティクスの実現に向けてさらに一歩先の未来へ」というコンセプトを掲げ、輸送業界だけでなく社会からの要請にも応える“燃費効率の更なる向上と環境への配慮”“優れた運転性能と安全性”、そして“高い稼働率と生産性”という3つのテーマで新しい技術やサービスを提案しました。

これからも、UDトラックスは、事業活動を通じてお客様と社会の持続可能な成長、発展に貢献する企業をめざし邁進してまいります。

今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

UDトラックス株式会社  
代表取締役社長

村上吉弘



UDトラックスについて

# 物流の大動脈を支え続ける 商用車メーカーとして

1935年に創立したUDトラックス株式会社は、商用車メーカーとして物流の大動脈を支え続けてきました。創業者である安達堅造がめざした堅牢なクルマづくりは、「UD」のマークに象徴されるUltimate Dependability——「終わりなき究極の信頼」というUDトラックスブランドのコア・バリューとして受け継がれています。

## 80年にわたる信頼と実績

2015年、UDトラックスは創立80周年を迎えました。戦前から現在に至るまで、社会基盤である輸送システムを支え、信頼と実績を積み重ねてきたUDトラックス。さらにその先にある「究極の信頼」をめざして歩み続けます。

**80<sup>th</sup>**  
Anniversary

## ボルボ・グループの一員として

UDトラックスブランドのトラックの開発・製造・販売をはじめ、現在はボルボおよびボルボ・ペンタブランドの日本拠点としての役割を担っています。国際的な商用車メーカーであるボルボ・グループの一員として、世界品質の輸送ソリューションを提供しています。

## UDトラックスの沿革

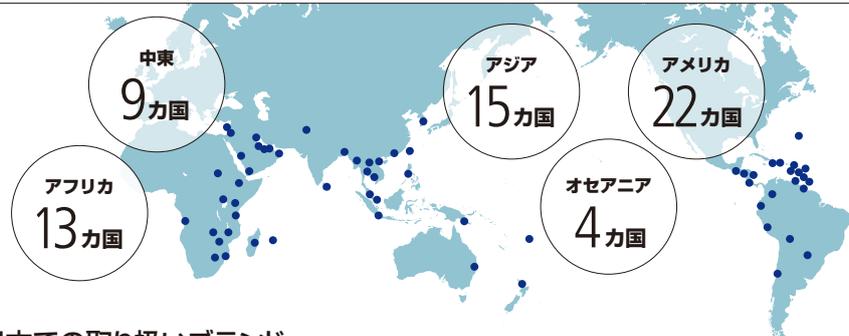
- |       |   |       |                                     |
|-------|---|-------|-------------------------------------|
| 1935年 | ディーゼルエンジン製造を目的とし、埼玉県川口市に日本ディーゼル工業(株)を創立 | 1975年 | 中型トラック「コンドル」誕生                      |
| 1938年 | 当社初のディーゼルエンジン完成                         | 1990年 | 低排出、快適、安全を向上させた「ビッグサム」誕生            |
| 1939年 | ディーゼルトラック1号車が完成<br>全行程3,000kmの試験走行を実施   | 1996年 | 中国に合併会社<br>「杭州東風日産ディーゼル汽車有限責任公司」を設立 |
| 1942年 | 鐘淵ディーゼル工業(株)に社名変更                       | 2004年 | フラッグシップ大型トラック「クオン」誕生                |
| 1946年 | 民生産業(株)に社名変更                            | 2006年 | ボルボ社が資本参加                           |
| 1950年 | 民生ディーゼル工業(株)に社名変更                       | 2010年 | UDトラックス(株)に社名変更                     |
| 1955年 | オリジナルの「UDエンジン」誕生                        | 2013年 | 新興国市場向け大型トラック<br>「クエスター」誕生          |
| 1958年 | 日本初積載量10トン超え<br>新幹線の敷設などで活躍した「6TW」誕生    | 2014年 | 販売会社UDトラックスジャパン(株)を合併               |
| 1960年 | 日産ディーゼル工業(株)に社名変更                       | 2015年 | 創立80周年を迎える                          |
| 1962年 | 上尾工場の操業開始                               |       |                                     |



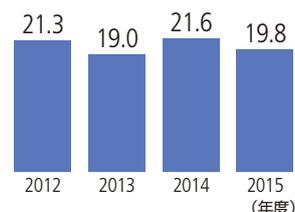
## 会社概要 (2016年4月1日現在、従業員数を除く)

<b>会社名</b>	UDトラックス株式会社	<b>従業員数</b>	6,520名(契約社員等および派遣社員含む、2016年1月末日現在)
<b>創立</b>	1935年12月1日	<b>主な事業</b>	UDトラックスブランドの大型・中型トラックの開発・製造・販売、UDトラックスブランドの小型トラックの販売、ディーゼルエンジンの製造・販売、自動車用部品の製造・販売、トラック・バスの整備および補修部品などの販売、ボルボブランド製品の輸入・販売
<b>代表者</b>	代表取締役会長 ヨアキム・ローゼンバーク 代表取締役社長 村上吉弘	<b>国内グループ会社</b>	VFSジャパン株式会社、株式会社ニューメック、株式会社さくらテックス、ボルボテクノロジージャパン株式会社
<b>所在地</b>	埼玉県上尾市大字壺丁目1番地		
<b>国内拠点</b>	本社・上尾工場、川口トレーニングセンター、群馬部品センター、ボルボ・ペンタオフィス、日本全国166カ所のサービスネットワーク拠点		
<b>資本金</b>	750億円		

## 主な輸出国



UDトラックスブランドの世界販売台数 (単位: 千台)



## 日本での取り扱いブランド



### UDトラックス

UDトラックスブランドの大型トラック「クオン」、中型トラック「コンドル」、小型トラック「カゼット」および新興国専用モデル「クエスター」を展開。



### ボルボ・トラック

ボルボブランドの大型トラックの輸入・販売。主な製品は、ボルボFH 4×2、6×4トラクターおよび6×2カーゴ。



### ボルボ・ペンタ

ボルボ・ペンタブランドの船舶、産業用エンジンの輸入・販売。主な製品はインボードおよびIPSマリンエンジン、発電機用エンジン。



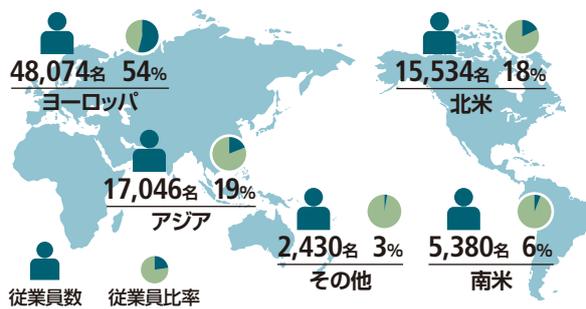
### ボルボ・コンストラクション・イクイップメント

ボルボブランドの建設機械の輸入・販売。主な製品はホイールローダ、アーティキュレートダンプトラック。

## ボルボ・グループについて

### 世界有数の大型商用車、ディーゼルエンジンメーカーとして

UDトラックスが所属するボルボ・グループは、スウェーデン・ヨーテボリに本拠を置く、トラック・バスなどの商用車、建設機械、船舶・産業用エンジンで世界有数のメーカーです。また、金融サービスでも、さまざまなソリューションを提供しています。世界18カ国に生産拠点を置き、約10万名の従業員が、190以上のマーケットで事業を推進しています。



(2015年現在)



# 世界中のボルボ・グループで一貫性のある取り組みを展開

## ボルボ・グループにおけるCSRの基本的な考え方

### 「企業理念」「行動規範」「ボルボ・ウェイ」と「サステナビリティ・アプローチ」を基盤に

ボルボ・グループは、社会・経済・環境側面における責任ある事業活動を通じて「持続可能な輸送ソリューションの世界的なリーダー」となることをビジョンとしています。

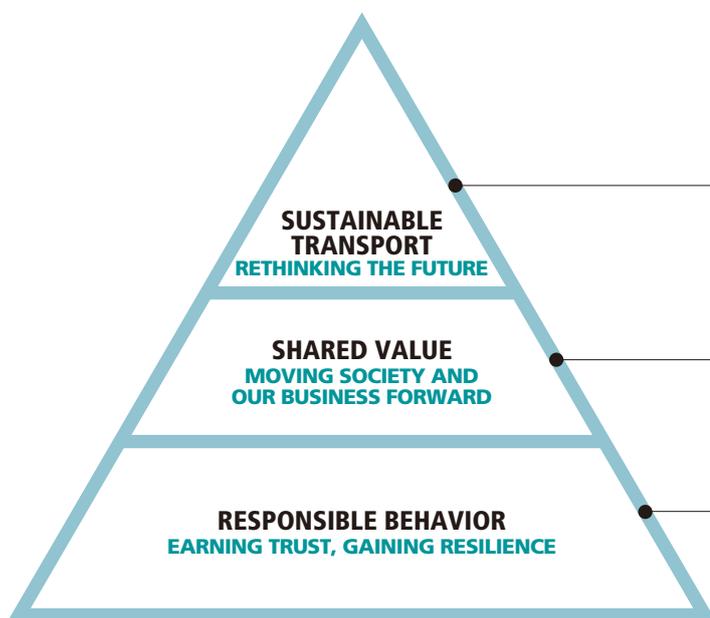
このビジョンを実現するために、ボルボ・グループは企業理念に、「品質」「安全性」「環境への配慮」を掲げています。そして、国連グローバル・コンパクトなどの国際的な行動規範やステークホルダーとの対話を重視した活動を推進するとともに、「コンプライアンス」や「お客様満足」「サプライチェーンマネジメント」「人権・労働慣行」など、CSRを果たす上で重要な課題に関する原則や行動をまとめた「ボルボ・グループ行動規範」や企業文化を定義した「ボルボ・ウェイ」を定め、世界中のグループ会社で共有しています。

また、多種多様な活動をより効果的に推進していくために、ボルボ・グループのCSR活動の方向性を示す「サステナビリティ・アプローチ」を定め、新たな価値創造を通じてステークホルダーとともに成長することをめざしています。さらに、2015年には、社会貢献活動のガイドラインを発行し、グループとして一体感のある活動を展開しています。

なお、2016年には新体制移行に伴い、これらのビジョンや方針の改訂が予定されています。



ボルボ・グループ行動規範



サステナビリティ・アプローチ

#### 持続可能な輸送 —— 未来に貢献

将来の社会ニーズに応えるための技術・商品開発や、より安全で快適な社会を実現するための先進技術の活用などを推進。

#### 価値の共有 —— 社会とボルボ・グループのビジネスの双方に価値を創出

ボルボ・グループの技術や知見をもとに、ステークホルダーや社会とともに「輸送」に関わるさまざまな課題を解決。

#### 責任ある行動 —— 社会から信頼を得る基礎づくり

コンプライアンスやリスクマネジメント、サプライチェーンマネジメント、人権への取り組みなど、CSR活動の基盤となるコーポレートガバナンスを強化。



## UDトラックスのCSR活動

### ボルボ・グループと連携しながら日本市場に根ざしたCSR活動を推進

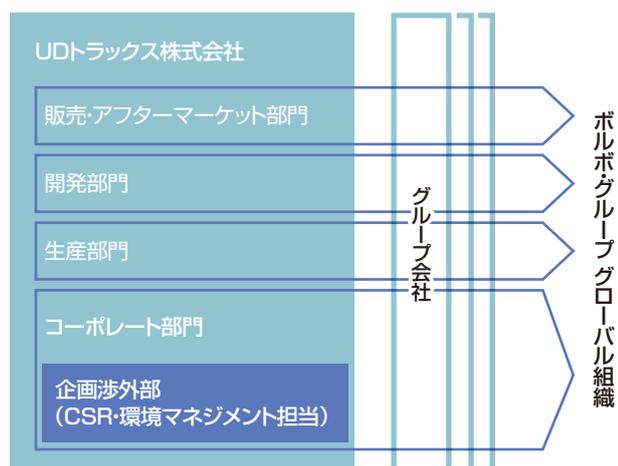
UDトラックスは、ボルボ・グループの方針に則り、さまざまなCSR活動を実施しています。

活動にあたっては、ボルボ本社をはじめ、世界のグループ会社と連携して「サステナビリティ・アプローチ」に則した活動事例やマネジメント手法などの情報を共有するとともに、ステークホルダーの声に基づく日本市場に根ざした活動を推進しています。

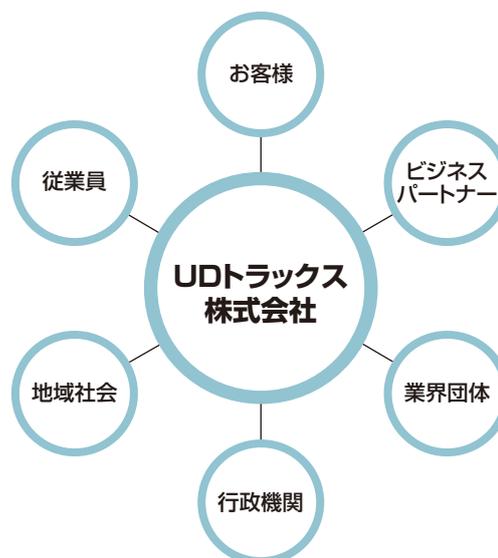
2015年は、ボルボ本社で発行された社会貢献活動のガイドラインに沿った活動を日本で展開していくために、UDトラックスとして取り組むべきテーマやプログラムについて検討しました。

#### CSRマネジメント体制

国・地方の行政機関や業界団体との折衝などを担当する企画渉外部のCSR・環境マネジメント担当が、社内のさまざまな部門で取り組んでいるCSR活動の情報の集約やコーディネーション、ボルボ・グループの方針に則った活動やISO26000に基づく取り組みの企画・推進などを担っています。また、全社で方向性の一致した活動を展開していくために、各部門でCSR担当者を選任し、定例会議のなかで組織横断的な情報の共有や具体的な活動の企画・検討を行っています。さらに、トップマネジメント会議において取り組みの進捗を報告し、経営層の指示・判断、承認を受けています。



#### ステークホルダーとの関係



#### コンプライアンス

「ボルボ・グループ行動規範」に定められた不正防止や公正な競争、適切な税務、利益相反の禁止などに関する基本方針に則った事業活動に努めています。競争法や贈収賄防止法をはじめとする法規および関連するボルボ・グループの内規についての社内研修や、全事務系と管理職従業員を対象としたeラーニングなど、適宜必要な教育を継続的に実施しています。また、コンプライアンス違反のおそれがある状況に適切に対応できるよう、内部通報システムを社内に整備しています。

2015年は、日常業務におけるコンプライアンス意識を高めることを目的に、管理職従業員を対象にトレーニングを実施しました。

#### リスクマネジメント

「リスクマネジメント委員会」を設置して、リスクマネジメント管理体制の強化を図っています。対象となるのは、大規模自然災害や火災、感染症、情報漏洩、人事労務などの業務遂行上のリスクで、とくに大規模地震および火災を事業継続に影響を及ぼす重要なリスクと位置づけ、防災組織による定期的な訓練および対応計画の見直しなどを実施しています。また、ボルボ・グループのセキュリティ・ポリシーを反映したリスクマネジメント計画および事業継続計画の策定も進めています。

## 特集1

# 燃費と稼働率、安心感のさらなる向上へ。

## ——進化する「UDロードサポート」

荷物を約束の時間に確実に届けるという運送事業者にとっての最大の使命を支えるために、UDトラックスは“燃費向上”“稼働率向上”“ドライバーの安全・安心の確保”という業界の普遍的な課題へのソリューションを長年にわたって追求してきました。その一環として2015年、国内トラックメーカーとして初めて自社内にコールセンターを開設。今後は、2011年から提供してきた「UDインフォメーションサービス(UDIS)」の情報も活用しながら、新たなロードサポート体制の構築をめざしていきます。

## お客様の要請に24時間365日対応する「UDロードサポート」 その窓口となるコールセンターを社内に開設

2015年12月、UDトラックスは、業界で初めてコールセンター機能を自社内に開設し、24時間・365日、従業員がコーディネーターとして直接ドライバーの皆様からのお問い合わせに対応する体制を整えました。

この体制によって、従来のコールセンターでは受付の後、メカニックの出動を要請するにとどまっていた対応をよりきめ細かく——例えばメカニックの到着予定時間をお客様へお知らせしたり到着を確認したり、また修理が完了したら修理内容などを報告するなど、受付から作業完了までを一貫してサポートできるようになりました。これにより、予期せぬ車両停止にストレスを感じるドライバーに正確な情報をタイムリーに伝えることができ安心感をもっていただきながら、メカニックも迅速に出動し、復旧作業に集中することができます。

コールセンターでは、技術トレーニングを受けたコー



ディネーターだけでなく、専門的な技術知識をもったスタッフも常駐。また本社と隣接した立地によりこれまで以上にアフターマーケットの関連部署と連携しやすい体制になりました。より高度なお問い合わせにもスムーズにお答えできるとともに、お客様の声を最短で本社にフィードバックすることが可能になります。

### 社員の声



#### 岩男 博子

アフターマーケット  
アップタイムサポートセンター  
マネージャー

コールセンターと他部署との社内連携は始まったばかりであり、対応品質の向上のためにはコーディネーターのスキルアップなど多くの研修、経験を重ねていく必要があります。関連部署と故障の事例、市場のトレンドなどについての情報を共有するとともに、UDISの車両位置情報や車両コンディション情報などをもっと活用して、お客様により的確なサポートを提供できるようにしていきたいと考えています。

## UDロードサポートの主なサービス



### UDトラックが運営する コールセンター

160時間以上のトレーニングを受けたコーディネーターが待機。UDトラックが運営するコールセンターだからこそできる専門性の高いサービスをご提供します。



### ワン・ストップ サポート

窓口となるコーディネーターが、事前にお客様より入手した車両情報をメカニックと共有し、連携することでトラブルの解決までお客様をワンストップで効率的にサポートします。



### UDメカニック

UDのサービスメカニックは、新製品、整備方法、装置に関する継続的なトレーニングを受けています。エキスパートなメカニックがトラブルを迅速に解決へと導きます。



### 遠隔診断(UDIS)

UDISに加入している車両なら、遠隔診断機能によって車両コンディションを確認し、事前にメカニックと共有することでトラブルにより素早く対応することができます。



### 車両位置検索(UDIS)

UDISに加入している車両なら、GPSによってコールセンターで現在の位置を瞬時に把握することができます。土地勘のない場所でもトラブルが発生しても安心です。



### UD専用のサービスバン

路上での修理が必要と判断した場合、日本全国に広がるサービスネットワークを活かして、最寄りの販売会社から専用のサービスバンが迅速に現場へ駆けつけます。

UDロードサポートは、事前の登録が必要なサービスです。詳しくは、お近くのUDトラックディーラーへお問い合わせください。

## “車両情報”を“サービス”につなげる 「UDインフォメーションサービス(UDIS)」

UDISは、多目的ディスプレイを通じて車両1台ごとの位置情報や燃費情報、エンジンなどの車両コンディション情報(油圧・水温など)をリアルタイムにサーバーに集め、その情報を“燃費・稼働率の向上”“輸送品質向上”“ドライバーの安心感向上”に役立つ「ECOレポート」や「安心稼働サ

ポート」などといったサービスとして提供します。お客様の不測の事態にはUDISのネットワークを介して車両コンディションと現在位置を把握し、迅速に対応するため、車両停止時間の大幅な短縮にもつながります。

### お客様の声



#### 川浦 理也 さん

セーフティオイルトランスポート  
株式会社  
安全統括部 部長

UDISの導入によって、安全・省燃費運転への取り組みが結果につながっていることを実感。グループ会社のなかで全国上位に名を連ねる優秀なドライバーが次々と出てきています。彼らには毎月の安全会議で心がけるポイントを話してもらって全員で共有し、さらなる輸送品質の向上に努めています。また、走行中の車両は常時モニタリングされ、不測の事態にも素早く対応してくれますから、夜間でも安心して走らせることができます。

### 社員の声



#### 高木 雅弘

コマースアフターマーケット  
トランスポートソリューション  
シニアマネージャー

おかげさまでUDISを導入いただいた多くのお客様から好評を頂戴しています。車両の位置や状態をUDトラック側でも把握することができるので、大きな安心感につながります。UDISのネットワークから集約されるさまざまな車両情報を活用し、燃費情報などのレポート提供や万一の際の迅速な対応の実現、さらに今後はコールセンターとも連携することでトラブルの未然防止につながる情報提供にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

## 特集2

# アジアからアフリカへ、 新たなステージで広がる 「クエスター」の可能性。

UDトラックスは2015年、新興国の幅広い産業ニーズに対応する大型トラック「クエスター」を、南アフリカとスリランカに投入しました。UDトラックスは、経済成長が続く国々での一層の普及を通じて、地域経済の持続的な成長を支えています。



## 南アフリカ 大型トラックの需要増大に応じて

2013年に市場投入した「クエスター」は、UDトラックスが80年の歴史で培った日本のモノづくりの技と、ボルボグループのグローバルなリソースを結集し、新興国市場向けに開発された大型トラックです。

UDトラックスは、このクエスターを、タイを皮切りにインドネシア、マレーシアなどの東南アジア諸国と中国※に投入。2015年からは新たに南アフリカ、スリランカで販売を開始しました。



南アフリカは、UDトラックスの国外最大市場で、1962年に市場に参入して以来、50年以上にわたって海上コンテナや鉱物資源・建築資材・木材・農産物など、現地の物流ニーズに対応してきました。また近年は、地元経済の発展に伴って港湾や空港、電力施設などインフラ整備や建設現場でのダンプやミキサー、散水車などの需要が高まっています。高い積載容量やさまざまな架装への対応能力、メンテナンスのしやすさ、オフロードでの頑強性能などの特長から、そうしたニーズに応える製品としてクエスターの市場投入を決定しました。

車両はUDトラックスの現地工場を組み立てられ、今後は、ジンバブエ、ザンビア、マラウイ、モザンビーク、ナミビア、ボツワナ、スワジランド、レソトといった周辺国にも順次投入していく計画です。

※クエスターの中国名: 酷腾=Kuteng。

## スリランカ 現地のパートナーとともに

スリランカでは、現地の有力企業と整備・販売面で30年以上にわたって提携し、製品を通じて石油やLPガスの輸送をはじめ港湾や空港、灌漑施設、発電所といった産業インフラの発展を支えています。南アジアでは初となるクエスターの投入によって、UDトラックスは現地の輸送効率を一層高め、同国の持続的な経済発展に貢献し続けていきます。



## 品質

### VISTA(ビスタ) 2015-2016に参加

アフターマーケット品質の向上をめざし、ボルボ・グループの技術トレーニングイベント「VISTA」に、全国のディーラーから68チームが参加しました。



## ビジネスパートナー

### 独立資本の販売会社の 技術向上をサポート

直系ディーラーと同じ研修やイベントの機会を独立系ディーラーにも提供し、より高い技術や知識の習得を支援しています。

## 安全性

### 安全運転講習会を開催

お客様を対象とした安全運転講習会を2015年は全国で121回実施し、3,901名のお客様が参加しました。



## 従業員

### ダイバーシティ& インクルージョン(D&I) 啓発イベントを開催

9月の「D&Iウィーク」では、ダイバーシティをテーマにした写真コンテストや、従業員の多様性を認知し相互理解を深める交流会を開催しました。



# ハイライト 2015

UDトラックスは、ボルボ・グループの「サステナビリティ・アプローチ」や社会的責任に関する国際規格、ISO26000に則った活動を展開しています。ここでは、2015年度の主なトピックスを紹介します。

## お客様満足

### 産業用エンジンで排出ガス規制Tier4Finalの認証を取得

ボルボ・ペンタの新型エンジン「D5」「D8」が、排出ガス規制Tier4Finalの認証を取得しました。5~16リッターすべてのエンジンで、お客様に高い環境性能とメンテナンス性を提供できるようにになりました。



### 製品試乗会を開催

6月のカーゴ系トラックの乗り比べでは67社77名、7月のトラクター試乗会では42社63名のお客様に実際の車両を体験していただきました。



## 社会

### 上智大学と連携して インターンシップを実施

上智大学との産学連携プログラムの一環として、学生に実践的な学びの場を提供しました。

## 環境

### 安全で環境に配慮した 新本社ビルが竣工

最新の免震構造や省エネルギー技術を採用した新本社ビルが7月に竣工しました。



# さらなる品質向上へ



UDトラックスは、「品質」を重要な経営テーマの一つとして位置づけ、ISO認証の取得を進めているほか、すべての事業活動で品質の確保・向上に取り組んでいます。

## 品質マネジメント方針

### すべての事業活動を通じて「品質」を追求

「品質」はボルボ・グループの企業理念の一つです。お客様に高い満足度を提供するためには、常に優れた品質を備えた製品・サービスを提供し続けなければなりません。そのためにUDトラックスでも、「お客様重視」「すべての従業員の積極的な参画」「プロセスアプローチと継続的な改善」の3つの行動指針をもとに、開発から生産、販売、アフターマーケットまでのすべての事業活動で品質の確保・向上に取り組んでいます。

## 品質マネジメントシステム

### ISO9001 認証の取得を推進

生産部門では、2002年度に品質マネジメントシステムの国際的な認証であるISO9001を取得しました。2015年度は、車両組み立て部署でUDトラックス株式会社としての認証を維持しつつ、エンジン・駆動部署のみ「ボルボ・グループエンジン・駆動部門」としての認証に移行しました。一方、開発部門では「ボルボ・グループ開発部門」としての認証取得をめざしています。

各部門では定期的にPDCAサイクルを回して、さらなる品質の向上を図っています。

## 主な取り組み

### 部門ごとに品質目標を設定し、業務に反映

#### 開発部門

#### 組織横断的な監査を定期的実施

ボルボ・グループ共通のプロセスに基づき、開発の段階ごとにチェックポイントを設定し、性能・機能・耐久信頼性など各品質項目に基づく監査を実施しています。監査は販売部門および技術品質管理部の代表者が組織横断的に行っており、製品の品質向上のための課題を共有するなど、有効

な対策の実施に役立てています。サプライヤーに対しては、製品を企画・開発し量産に至るまでの手順やなすべき作業を定めた手順書に基づいてデリバリー体制や品質管理体制を確認し、供給部品の品質確保を図っています。

#### 従業員啓発

日頃から品質に対する意識を高めるために、開発部門の従業員を対象にISO9001の基本知識やボルボ・グループの品質マネジメント方針、またそれらが日常業務とどのように関連しているのかについて学ぶトレーニングを行っています。一人ひとりの意識への浸透をめざして、従業員の業務や習熟度に応じたトレーニングプログラムを設定しています。

#### 生産部門

### 各部署の品質責任者の取り組みを内部監査で確認

生産部門では、各部署の責任者が品質マネジメントシステムを確立・維持する責任と権限をもっています。生産活動では、UDトラックス独自の管理手法を導入し、あらかじめ定められたプロセスに沿って部品のデリバリーや製造過程での生産・品質不具合を日々確認しながら、目標とする品質を確保し、要求事項を満たすよう努めています。この管理手法はボルボ・グループの各工場にも採用されるなど、製造時の品質確保の標準としてグローバルに展開されています。

また、現場での取り組みが有効であったかどうかを評価するために、内部監査を計画的に実施しています。監査の評価をもとに、必要に応じて各部では是正措置を講じるなど、すべての項目が確実に監査目的に適合するよう改善を図っています。2015年度は、11月に上尾、羽生のエンジン・駆動部署と車両組み立て部署で内部監査を実施しました。

#### 従業員啓発

全社的な品質意識の向上を図るため、毎年11月を「品質月間」とし、部署ごとに各工程を再確認しながら品質管理技術や技能のレベルアップを図っています。

## 販売・アフターマーケット部門

### アフターマーケット品質の向上のための 多彩な取り組みを実施

お客様に日々安心してトラックを使用していただけるように、UDトラックは整備スタッフのスキルアップを柱にアフターマーケット品質の確保・向上に努めています。

#### 整備品質の向上

ディーラー各拠点での再整備を防止するために、アフターマーケット部門では、支社の整備工場担当が毎月、再整備の要因を分析してアフターマーケット本部に報告しています。その際、重要度の高い再整備については、拠点内で対策会議を開催し、改善策を検討しています。改善策はアフターマーケット本部から全国の拠点へ情報共有され、同様の再整備が発生することを抑制しています。

#### クオリティ・テクニカル・カンファレンス2015

予期せぬ車両不具合の発生にも迅速かつ的確に対応できる豊富な知識とスキルをもつ整備スタッフを養成し、お客様に質の高いサービスを提供していくために、アフターマーケット部門では、2014年より、メカニックとトレーナーを対象とした講習会「クオリティ・テクニカル・カンファレンス」を開催しています。2015年は11月に大阪で開催し、約250名が参加しました。自社トラックの最新の品質改善内容、専用ツールを用いた故障データ分析手法、お問い合わせの多い不具合の修理ポイント、新しい品質情報処理方法などに関する4講座を2日間にわたって受講しました。



クオリティ・テクニカル・カンファレンス2015に参加した従業員たち

#### 世界規模のアフターマーケット技能向上イベントに参加

アフターマーケット部門では、ボルボ・グループが世界規模で開催しているトレーニングイベントに参加し、グローバルレベルでの技能の研鑽に取り組んでいます。

2015年9月には、ボルボトラックとボルボバスのアフターマーケット業務に関わるメカニックやパーツ担当者、フロントスタッフらを対象とした「VISTA(ビスタ)2015-2016」がスタートし、日本からはUDトラックとボルボトラックのディーラー合計68チームが参加しています。チーム対抗で行われる競技会は筆記問題と実技で構成されており、勝ち進むための取り組みが参加者の知識や技術の向上、チームワークの構築につながっています。

1957年に競技会が始まって以来、最大規模となる「VISTA2015-2016」のワールドファイナルは、2016年6月にスウェーデンで開催されます。

また、2014年6月～11月にはUDトラックのトレーニングイベント「UDトラック現場チャレンジ」が開催され、日本から102チームが参加したほか、南・東南アジア、南アフリカのディーラーが参加しました。



「VISTA2015-2016」に参加した金沢カスタマーセンターのメンバー

#### 製品の品質に関する情報開示

お客様の安全や環境に影響を及ぼす不具合が発生した場合には、国土交通省のガイドラインに基づき、速やかに情報を開示しています。

届出件数(各年1～12月)

	2013年		2014年		2015年	
	UDトラック	ボルボトラック	UDトラック	ボルボトラック	UDトラック	ボルボトラック
リコール	7件	1件	5件	2件	4件	2件
改善対策	0件	0件	0件	0件	0件	1件
サービスキャンペーン	0件	0件	3件	0件	1件	1件

# お客様満足の上をめざして



お客様満足の上をめざすために、UDトラックは、製品開発段階からお客様の潜在的なニーズの把握に努めるとともに、さまざまなコミュニケーションによってお客様の声を日々の事業活動に反映しています。

## お客様満足向上に対する方針

### お客様の視点に立った 商品計画・開発計画を立案・実行

お客様に満足度の高い商品を提供するために、UDトラックは、お客様の日々の業務や直面している課題を知り、理解するところから商品計画を始めています。そして、将来のトレンド——10年後の社会や業界の状況、新しい法規制などを考慮し、ボルボ・グループがもつ知見や実績も加味しながら、開発計画を策定しています。

また、トラックは長期間使用されるため、生涯コストをいかに低減し、リターンを最大化するかに照準を合わせた目標を設定し、その達成に向けた方策を開発計画に織り込んでいます。新製品の発表時には、お客様にUDトラックがめざした目標や導入メリットがはっきり伝わるよう、お客様の言葉や視点で紹介するよう努めています。

## 主な取り組み

### お客様とのコミュニケーション活動を推進

#### お客様との直接対話

#### 市場トレンドを継続的にヒアリング

商品計画や開発部門では、お客様のニーズを把握するために、専門的な知識をもった従業員が直接お客様を訪問し、ご意見やご要望を聞く活動を継続しています。また、日本市場は荷台架装の種類が非常に多いため、定期的に架装メーカーを訪問して車両全体の市場トレンドを調査し、商品計画に反映しています。

#### 製品試乗会

#### 製品を体験する機会を提供

お客様に、製品の特徴をより深く理解し最適な製品を選択していただくことを目的に、2015年5月に新設した「UDエクスペリエンスセンター」とテストコースを活用した試乗会を開催しています。

2015年6月には、67社77名のお客様に参加していただき、カーゴ系大型トラックの比較をテーマに、マニュアル車とオート



マチック車や、他メーカー車と当社の大型トラック「クオン」の乗り比べを行いました。車両によって異なる操作・運転性や疲労感を体感した参加者からは「ユーザーとしては貴重な機会で勉強になった」「オートマチックといってもメーカーごとに違いがあることがわかった」といった声が寄せられました。

7月にはクオンのトラクターの試乗会を開催し、42社63名のお客様に参加していただきました。

## 定期的な情報発信

### お客様向け情報誌を発行

UDトラックは、毎月お客様向け情報誌「ディーゼル・ニュース」を発行しています。人材育成や労務管理、他社の成功事例など、お客様の経営課題の解決に役立つ話題や学術的な情報などを掲載しています。



ディーゼルニュース ポ・ヴェーグ

また、ボルボトラックでは、「ポ・ヴェーグ(スウェーデン語で「道の途中」の意)」を、年2~3回発行し、製品やアフターサービス情報、世界各地のお客様の声など、さまざまな情報を豊富な写真とともに紹介しています。

## お客様相談窓口の取り組み

### お客様の声を商品や事業活動に反映

お客様からのお問い合わせやご意見、ご要望に電話で対応する「お客様相談室」を設置しています。想定されるお問い合わせごとにマニュアルを整備し、迅速かつ円滑な対応に努めています。また、内容に応じて関係部署と情報を共有し、商品の改善や事業活動に反映しています。総受付件数は、2014年は5,255件、2015年は5,384件でした。

# ビジネスパートナーとの連携のために



サプライヤーや独立資本の販売会社は、私たちのビジネスにおいて欠かすことのできない大切なパートナーです。ボルボ・グループの方針やお客様満足の見点を重視しながら、より良い関係の構築をめざしています。

## サプライヤーに対する方針

### 適正な関係づくりに努め CSRの実行プロセスとして調達を実施

原材料や設備だけでなく、日常業務に必要なサービスや消耗品の購入に至るまで、サプライヤーはUDトラックスの事業活動において重要な役割を果たしています。この認識のもと、UDトラックスは、ボルボ・グループの調達方針に則り、サプライヤーとの適正な関係づくりに努めています。

またボルボ・グループでは、調達活動をCSRを実行するプロセスの一つとして位置づけており、「責任ある調達」を実践することで、持続可能な社会の実現、環境負荷の低減、そして、ビジネスの側面から倫理観を高めながらサプライチェーンにおけるリスクを管理し、サプライヤーとの長期的な関係を築いていくことをめざしています。サプライヤー各社へは、各国の法規制や「ボルボ・グループ行動規範」に含まれたルールの遵守、国連グローバル・コンパクトなどの国際的な規範の尊重をお願いしています。さらに、環境保護と環境負荷低減の観点から、ISO14001もしくはそれと同等の第三者機関による認証の取得をお願いしています。

加えてUDトラックスは、すべての一次サプライヤーに同レベルの取り組みをお願いするとともに、二次、三次サプライヤーに対しても、一次サプライヤーを通じて調達方針を展開しています。

## 主な取り組み

### 適正なサプライチェーンを構築

#### 調達管理の一元化

#### 専任部署が全社の調達活動をマネジメント

UDトラックスでは、サプライヤーの選定のほか、品質やサービス、コストなどの評価を、全社の調達業務を管理する調達部がボルボ・グループの調達方針に則り行っています。とくに、新規サプライヤーからの調達の検討が必要な場合は、調達部が物品やサービスの購入を検討する部署と連携

し、必要なアイテムや条件・予算などを確認した上で、最終的な発注先を決定しています。

## 紛争鉱物および鉱物資源採掘に関する取り組み

### グローバルな重要課題と位置づけて 取り組みを強化

一般的にコンピュータ部品の製造などに不可欠で、先進国での需要が高いスズ、タンタル、タングステン、金といった鉱物資源は、主に紛争地域であるコンゴ民主共和国と隣国に隣接する国々で採掘されるため、当該地域からの調達が現地の武装勢力の資金調達源となり、結果として地域の紛争に加担することが世界的に危惧されています。ボルボ・グループでは、これら紛争鉱物問題への対応をグローバルなサプライチェーンマネジメントにおける重要課題と位置づけ、国際的な要請への対応を強化しています。

## 独立資本の販売会社に対する方針

### 各社の事業活動を尊重し 技術の向上をサポート

UDトラックスは、自社直系ディーラーのほかに、独立系ディーラー6社32拠点と連携して製品やサービスをお客様にお届けしています。お客様満足度の向上を目標として共有し、各社の地域に根ざした事業活動を尊重するとともに、直系ディーラーと同じ研修やイベントの機会を提供し、より高い技術や知識の習得を支援しています。

## 主な取り組み

### 技術トレーニングの機会を提供

アフターマーケットに関わるスタッフの技術向上を積極的にサポートしています。技術講習会「クオリティ・テクニカル・カンファレンス2015」には、独立系ディーラーから20名が、またボルボ・グループの世界的なトレーニングイベント「VISTA2015-2016」には12名が参加しました。

# 安全性を追求して



UDトラックスは、トラックメーカーとして継続的に「安全性」の向上に努めています。先進安全技術の開発に注力するとともに、安全に関わる知識の提供や啓発活動に取り組んでいます。

## 安全マネジメント方針

### 安全な輸送ソリューションを提供する リーディングカンパニーをめざして

「安全性」は、ボルボ・グループの企業理念の一つです。人々の健康と幸せな生活に貢献するために、自社製品に起因する事故をゼロにするという究極の目標に向けて、安全性向上の継続的な取り組みを行っています。

UDトラックスでは、お客様の製品の使用方法に関する知見を深め、安全性に関して起こりうる問題を体系的に検証しながら製品やサービスを開発しています。また、お客様や対象市場のニーズ、交通インフラなどに適した安全機能を備えた製品・サービスの提供に努めています。

## 主な取り組み

### 「技術」と「意識」を軸に安全性を向上

#### 環境・安全技術連絡会

#### 定期的な会議を開催して 製品の安全性を確認

製品の開発にあたっては、ボルボ・グループの安全ポリシーに基づき、各国の法規制、地域や業界の自主規制を遵守することを基本としています。

この基本を徹底するために、毎月、商品開発や商品企画に関わる担当で構成する「環境・安全技術連絡会」を開催し、国内外の法規制の動向や業界のトレンド、新技術など、安全性に関わるさまざまな情報を共有しています。また、自社製品の開発に影響を及ぼす可能性のある情報については、先行開発、商品戦略などの部署の責任者が適宜製品化に向けた議論を行い、適切に判断するよう努めています。

#### 安全技術の開発・活用

#### 法規に先駆けて先進安全技術を導入

社会やお客様の安全性に対するニーズの高まりに応えるために、先進的な安全技術の開発に注力するとともに、法

規の施行に先行して市場に投入することで、安全技術の普及を図っています。

2014年5月に発売した大型トラック「クオン」には、AEBS(先進緊急ブレーキシステム、2014年11月より新型車に順次義務化)を標準搭載し、またLDWS(車線逸脱警報装置、2017年11月より新型車に順次義務化)をオプション装備として設定しています。

AEBSは、ミリ波レーダーを用いた車間距離検出装置によって前方車両への衝突リスクを検知すると、警告灯とブザーで注意を促します。ドライバーが回避行動に移らない場合はブレーキが自動作動し、衝突を回避もしくは衝突時のダメージを軽減します。

LDWSは、ドライバーが意図しない形で車両が走行車線から外れた場合に警告するシステムです。車載カメラが前方の走行車線をモニタリングし、高速走行中に車線ラインを逸脱した場合、ブザーで注意を促します。

#### 車両試験の実施

トラックの安全性能を確実に発揮するために、実際の使用状況を想定したさまざまな車両試験を行っています。

新型車両の開発段階では、あらかじめ市場調査によって得られたお客様の使用方法や使用環境の情報をもとに、車両の一つひとつの機能の有効性と、車両全体の総合的なバランスを検証する走行試験を、テストコースだけでなく公道でも実施しています。最終段階となる公道走行試験では、実際にトラックが稼動する条件下で検証を繰り返すことにより、さらに安全性を高めています。

高い安全性を確保するためUDトラックスでは、衝突被害軽減ブレーキなどの安全装備の充実やフロントガラス・ミラーの視認性といった機能の向上とともに、トラックドライバーや乗用車・歩行者といった道路利用者の視点から事故そのもののリスクを低減することにも積極的に取り組んでいます。そのため、走行試験においては、安全技術だけでなく、例えばドライバーが長時間の運転でも疲れにくく、ストレスなく思い通りに操作できるか、万一乗用車がトラック

と衝突した場合でも乗員への被害を最小限にとどめられるかなどにも考慮しながら評価を行っています。



寒地走行試験の様子

また、UDトラック

では、1985年から30年以上にわたって、北海道北見市で寒地走行試験を実施しています。3週間でのべ200名の実験エンジニアが参加し、寒冷地における車両の走行性能や安全性能評価、各種部品の性能評価などを行っています。さらに、低温による車両への影響だけでなく、雪の付着や凍結など、さまざまな使用環境を網羅した複合的な評価を実施しています。氷点下20度に達する厳しい環境で試験を行うことで、寒冷地でも安心して快適にご利用いただける製品の提供に努めています。

### ヨーロッパ拠点との連携

世界的な法規制やマーケットの動向を踏まえ、ボルボグループの最新技術を結集して、より安全で信頼性の高いトラックを効率的に開発するために、UDトラックはヨーロッパやアジアの拠点と連携した商品開発を行っています。例えば、現行の大型トラック「クオン」は、ヨーロッパのテストコースにおいても走行評価を実施しています。

### 安全運転講習会

#### お客様のニーズに沿った実践的なプログラムを提供

販売部門では、トラック稼働時の安全性の向上をサポートするために、お客様を対象に「安全運転講習会」を開催しています。2015年は121回(2014年153回)実施し、3,901名(同3,164名)のお客様に参加していただきました。講習会では、「運輸安全マネジメント」「飲酒運転の危険性」「トラックの死角」



「事件事例と防止策」「危険回避」「ヒューマンエラー」などから、お客様のニーズに沿ったテーマを選定し、学んだ知識をすぐに実践できるよう、座学と実技を組み合わせたプログラム構成としています。また、効果を最大化するため、講習会で用いるツールについても、実際の事故車両に取り付けられていたドライブレコーダーの映像を使ってお客様に事故を疑似体験していただくなど、各テーマを自分自身のこととして捉えられるよう工夫しています。

受講者からは、アンケートを通じて講習会の内容や資料、講師、時間配分などについての評価を聞き、プログラムや資料の更新などに役立てています。

### 交通安全啓発活動

#### 日本自動車工業会のキャンペーンに参加

UDトラックを含む国内の自動車メーカーが加盟する一般社団法人日本自動車工業会(自工会)では、交通安全啓発活動を継続的に実施



しています。2014年の日本国内における交通事故による死者数は4,113名で、14年連続で減少しましたが、依然として高いレベルにあります。なかでも高齢者が占める割合が大きくさらに年々増加していることから、高齢者を対象とした交通安全啓発が喫緊の課題となっています。

2015年秋の全国交通安全運動と連動して実施された自工会の「秋季交通安全キャンペーン」では、UDトラックも重点地域である静岡県で行われた街頭活動に参加しました。

高齢者の交通事故死者のなかでも、とくに夕暮れから夜間にかけて歩行者が巻き込まれるケースが多いことから、街頭活動では歩行者が目立つ自発光式反射材を配布して交通安全を呼びかけました。またディーラーの店頭には、歩行者の早期発見に効果的な「夕方早めのヘッドライト点灯」を促すのぼりを掲示し、ドライバーに注意喚起しました。

# 従業員の力を活かすために



「持続可能な輸送ソリューションの世界的リーダー」を担う優秀な人材の雇用と育成、最適配置を実現するために、個人がもつ多様な強みを活かす人事制度の設計・運用、多様な働き方を実現する活動を推進しています。

## 人材マネジメント方針

### 「グローバルでハイパフォーマンスな人材」を育成

UDトラックスは、「持続可能な輸送ソリューションで世界的なリーダーになる」というボルボ・グループのビジョンを実現していくために、「グローバルでハイパフォーマンス」という人材像を掲げています。そして、優秀な人材を積極的に採用するとともに、体系的な人材育成システム、公正・公平な評価システムの構築に注力しています。

これら制度の設計や運用にあたっては、「ボルボ・ウェイ」に明記された「個人の尊重」「自発性」「多様性・クロスファンクショナル」「チームワーク」「情熱・責任感」「オープンな対話」といった価値観を重視するとともに、従業員意識調査の結果などを踏まえ、各種の取り組みがUDトラックスらしい企業文化の構築や、一人ひとりの能力を最大限に発揮できる働きやすい職場づくりにつながるよう努めています。

## 主な取り組み

### 多様な従業員が能力を発揮し安全に働ける環境を整備

#### ダイバーシティ&インクルージョンマネージメント

#### ポリシーを定めてさまざまな活動を推進

ボルボ・グループは、「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)ポリシー」に基づき、人材の多様性を高め、個人が最大限に能力を発揮できる環境を築くことで、持続的な成長をめざしています。毎年実施している従業員意識調査では、主に性別・国籍・年齢でダイバーシティの度合いを、チームの

#### ダイバーシティとは

性別、国籍、人種、年齢、性的指向、宗教、政治に対する信条社会経済的地位、身体能力など、異なる背景や視点をもつ人々のこと。

#### インクルージョンとは

自身の存在を尊重され、評価されていると感じること。また、能力を最大限に発揮できるよう、周囲から一定の支援と関与を感じること。その実施方法は国内外の拠点を巻き込むダイナミクスなものとなっています。

一員として必要とされていると感じているかなどを問う質問でインクルージョンの浸透度を評価しています。

また、各部署から選出されたメンバーが活動を企画するDICJ(Diversity & Inclusiveness Community Japan)や、女性従業員によるWIN(Women's Inclusive Network)などの活動を通じて、従業員もD&Iの推進役として活躍しています。

2015年度は、マネージャーを対象に「ダイバーシティ・インクルーシブネス・リーダーシップトレーニング」を実施し、57名が参加しました。D&Iについて理解を深めるとともに、日常の業務や同僚との関係性にいかに取り入れていくかという視点から講義やワークショップを行いました。また、9月にはD&Iの啓発を目的に「D&Iウィーク」を開催。期間中は、従業員からダイバーシティを表現した写真を募るコンテストを実施したほか、さまざまな部署や国籍の従業員同士の相互理解を促進するため「フィーカ\*」を行いました。



フィーカを楽しむ従業員たち

\*スウェーデンでティーブレイクを利用して行われるカジュアルな対話。

## 人材採用・登用

### 個人の能力・企業戦略を踏まえた人材採用と女性従業員の活躍を推進

個々人の関心や志向、能力と、企業としての中長期戦略を踏まえて採用活動を実施しています。2015年度は、144名の新卒者、33名のキャリア保有者を採用しました。

また、女性従業員の活躍推進にも力を入れています。原則、すべてのオープンポジションは社内公募制度の応募者から登用しており、現在40名の女性管理職がさまざまな部署で活躍しています。

#### 従業員数(2015年12月末日現在)

性別	従業員数	男女比率
女性	464名	7.4%
男性	5,769名	92.6%
総計	6,233名	100.0%

#### 国籍数: 23カ国

アイルランド、アメリカ、イギリス、インド、オーストラリア、カナダ、スウェーデン、スリランカ、タイ、ドイツ、トルコ、ネパール、ブラジル、フランス、ベトナム、ベルギー、マレーシア、ミャンマー、メキシコ、韓国、中国、南アフリカ、日本

## 人材育成

### 長期的な視点でキャリア形成をサポート

長期的な視点で従業員のキャリア形成をサポートしていくために、毎年のパフォーマンス評価の際に個人の育成計画について上司と部下が話し合いをもっています。また、後継者育成計画の策定・レビューを通じて、ミドルからシニアレベルまでの計画的な育成計画を実行しています。

研修においては、グローバルに標準化されたプログラムで構成される「ボルボ・グループ・ユニバーシティ」と、日本のビジネス環境に則った「ローカルトレーニング」を組み合わせることを基本に、階層別のリーダー育成研修、各事業部門が行うファンクション主体研修など、さまざまなプログラムを提供しています。

## 公平な評価・処遇

### 年間目標を設定して半年ごとに進捗を確認

全従業員が毎年、年間目標を設定し、半年ごとに上司と進捗などを確認しています。また、個人の目標達成度をベースに、チームや全社の目標達成度などを加味した報酬制度を整備しています。

## 従業員意識調査

### 調査結果をもとにアクションプランを策定

従業員とのコミュニケーションや積極的な経営参画を推進するため、毎年従業員の意識調査を実施しています。

調査では、会社の価値観や目標、戦略に対する従業員の参画意識を、従業員であることの誇りや組織への満足度などで測り、スコアの低い項目についてはアクションプランを策定し、改善を図っています。

## ワークライフバランス

### 活用しやすい仕組みづくりに注力

人事部門が中心になってワークライフバランスの充実を支援しています。また、「ワーク・フロム・ホーム（随時または期限付の在宅勤務）」やコアタイムを設けないフレックスタ

イム制度など、従業員がプライベートと仕事を効率的に両立できるよう、各種制度やポリシーを整えています。

## 個別の働き方を支援する主な制度・ポリシー

- 育児休職制度
- 介護休職制度
- ワーク・フロム・ホーム制度
- フレックスタイム制度
- 職場での尊厳に関するポリシー（ハラスメント防止策）

## 職場の安全と健康

### 安全な職場環境づくりを推進

従業員に安全な職場環境を提供することは企業としての基本的な責任だけではなく、事業の成功にとっても重要な要素です。ボルボ・グループは、「従業員の理解と参画」「予防と促進のアプローチ」「実現性と実効性」という3つの考え方を柱に、安全な職場環境づくりに取り組んでいます。

## 安全で快適な新本社ビルの建設

2011年の東日本大震災発生を機に、一部の建物が旧耐震基準のものであったことから、最新の安全基準に準拠した新本社ビルを2015年7月に竣工しました。新しいビルの建設にあたっては、従業員が快適に働けるよう採光や空調にも配慮しました。また、旧建物の跡地を芝生の緑地スペースにすることで、従業員の憩いの場所として活用しています。

## 生産工場における労働災害の防止

従業員の安全を最優先に生産活動を行っています。安全衛生委員会を通じて、従業員と安全や健康に関する情報を共有しているほか、日常業務で起きた事例を報告し合う機会を設けることで従業員相互の注意喚起を図っています。この活動により上尾工場では2009年以降、休業災害ゼロを継続しています。

# 社会の一員として



事業の円滑な推進のためには、社会との信頼関係を構築することが不可欠です。そのためにUDトラックスは、経営資源を活用して若い世代の育成や交通安全に寄与する社会貢献活動などに取り組んでいます。

## 社会貢献活動方針

### 持続可能な社会の実現をめざして

ボルボグループでは、事業活動を行う国や地域に根ざした社会貢献活動を展開しています。

企業が長期にわたり継続的な成長を遂げるためには、地球環境や社会、そして人々の生活が持続可能であることが大前提となります。UDトラックスでは、お客様やビジネスパートナー、地域社会など多様なステークホルダーとより良い関係を築きながら、企業市民としてできることから社会貢献活動を企画・運営しています。

## 主な取り組み

### 経営資源を活かした活動を推進

#### 自動車整備専門学校での技術トレーニング

#### 将来の自動車業界を担う人材を育成

UDトラックスでは、将来の自動車業界を支える優秀な人材を育成するため、整備士をめざす若い世代に対してトラックの魅力を伝えながら、より実践的な知識の習得をサポートしています。

東北支社では、2011年度から自動車整備専門学校の教員や学生を対象としたトラックの新技术に関するトレーニングを続けています。2015年8月には、宮城県の花壇自動車大学校で研修会を開催し、メカニックをめざす一級自動車科3年生35名が受講しました。東北支社のスタッフが講師となって、中型トラック「コンドル」や大型トラック「ボルボFH」、トランスミッション「ESCOT-V」の実機を見ながら、その構造などを説明しました。同校では普段の授業でもディーゼルエンジンを扱っていますが、乗用車が中心のため、多くの学生にとってトラックやその部品に触れることは初めての体験でした。学生たちはトラックに搭載されている最新技術の数々や部品の大きさに驚き、質疑応答では「燃費は?」「エンジンオイルの量は?」など、多くの質問が投げかけられました。

また12月には、長野県の松本技術専門校で自動車整備科の2年生を対象に、大型車技術講習会を行いました。この講習会は、2016年度にUDトラックスに入社した同校の学生が松本カスタマーセンターでインターンシップを体験した際に、「後輩たちにも同じ経験をしてほしい」と要望したことがきっかけで実現しました。松本カスタマーセンターのスタッフが講師を務め、大型トラック「クオン」「ボルボFH」を使って、その構造や特徴を説明しました。同校の授業では主に乗用車と二輪車を取り扱っているため、普段は大型車に触れる機会が少なく、休憩時間には今回の受講対象ではない1年生もトラックを見学に来るなど、注目度の高い講習会となりました。

今後も、UDトラックスは各地で技術トレーニングを継続していく予定です。



#### ディーラーでの交通安全啓発活動

#### 子ども向けの交通安全教室を実施

横浜カスタマーセンターでは、毎年近隣小学校の学童保育の子どもたちを招いて、整備工場見学を実施しています。5回目となった2015年は、初めての試みとして交通安全教室も同時に開催しました。

参加した子どもたちは、車検を行うピットに入りトラックを下から観察したり、大型レッカー車を間近で見学したりしたほか、大型トラックの運転席に座ってトラックの視界を体験しました。事前にトラックの死角について学んでいた子どもたちは、実際に運転席から外を見て、トラックの前方で手を振っている歩行者が死角に入ると見えなくなることに驚きの声を上げていました。最後に、交通安



全教室で学んだことを思い出してもらえよう、トラックの形をしたリフレクターを配布しました。

トラックによる交通事故件数は乗用車に比べて少ないものの、ひとたび事故が起こると重大化する傾向があります。トラックの特性を知ることによって子どもたちが交通事故に巻き込まれるリスクを低減できるように、今後も定期的に交通安全教室を開催していきます。

### 上智大学との産学連携プログラム

#### グローバル人材の育成に貢献

ボルボ・グループは、グローバル人材を育成していくために、学生に対してさまざまな学びの機会を提供しています。

日本でも2014年に上智大学とパートナーシップを結び、グローバル人材の育成に取り組んでいます。期間は3年間で、大学と当社が協力して活動内容を企画しており、これまでに具体的な課題を設定して行う4週間のインターンシップや、学生が発案した研究プロジェクトへの奨学金支援、秋学期の正規の授業として当社の従業員が専門分野の講師を受けもつ「グローバルビジネス」講座などを実施しました。

また、2016年度からはボルボ・グループの海外拠点に約3カ月間にわたって学生を派遣するグローバルインターンシップを開始する予定で、その参加者を選抜しました。

### ノーベル・プライズ・ダイアログ・東京2015

#### 世界的な科学者が集うシンポジウムに学生を招待

ノーベル・プライズ・ダイアログとは、2012年からノーベル賞受賞式に合わせてスウェーデンのストックホルムで開催されている世界的な科学者たちが集まるシンポジウムで、ボルボ・グループも開催に協力しています。

2015年3月、このシンポジウムがスウェーデン以外の国としては初めて日本で開催され、UDトラックスは産学連携プログラムのパートナーである上智大学の学生を招待しました。会場には、2014年にノーベル物理学賞を受賞した天野浩教授や2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授をはじめ、経済界の研究者、国策提案者など、国内外からさまざまな分野の専門家が集まり、生命科学の進展と未来の社会をテーマに講演やパネルディスカッションを行いました。

上智大学から参加した学生からは、「産学連携プログラムで貴重な機会を得た」「世界的な科学者がディスカッションする姿を直接見るだけで、刺激になった」といった感想が聞かれました。



## Voice インターンシップ生の声

### 実践の場でマーケティングの根幹を学ぶ

大学ではマーケティングのゼミに所属していました。UDトラックスがインターンシップを実施していることを知り、ブランディングの実務をできるだけ社会人と接点の多い環境で学びたいと希望して、4週間にわたるブランド部署での業務を体験しました。

一番印象的だったのは、何の制約もなく自らが主体となって取り組む機会を与えられたことです。UDトラックスのインターンシップは1部署に1名のみが参加し、やってみたいことを自己申告した上で、提示された課題に向き合うという進め方でした。課題へ

のアプローチも自分自身で考え、情報を収集・分析し、企画としてまとめました。業務の合間やランチタイムには、従業員の皆さんにアイデアを披露して、意見をいただくこともできました。

ほかにも、実際にトラックを運転したり、お客様を対象にしたイベントに参加したりする機会もありました。マーケティングの根幹である「現場やお客様の声を聞く」ことの重要性を実感できたことは貴重な体験でした。



上智大学 経済学部経営学科(2016年3月卒) 三科 圭介 さん



# 環境経営の推進に向けて

UDトラックスは、ボルボ・グループのビジョンに沿った環境プログラムや環境管理・保全に関する中長期計画に基づき、製品の環境性能の向上と事業活動に伴う環境負荷の低減を推進し、持続可能な社会の実現をめざしています。

## 環境マネジメント方針

### 4つのプログラムで 持続可能な社会の実現に貢献

ボルボ・グループは、「環境への配慮」を企業理念の一つに掲げ、この分野におけるリーディングカンパニーをめざしています。

このビジョンに沿って、UDトラックスは、「全体的な視点」「継続的な改善」「技術の発展」「資源の利用効率向上」の4つからなる環境プログラムを推進し、持続可能な社会の実現をめざしています。

#### 環境プログラム

##### 全体的な視点

製品ライフサイクル全体を考慮し、製品・業務・サービスが環境に及ぼす影響を低減する取り組み

##### 継続的な改善

従業員が主体となって、それぞれの業務のなかで必然的・継続的に推進する取り組み

##### 技術の発展

お客様や社会からの要請・期待を上回る、自発的・先駆的な研究開発

##### 資源の利用効率向上

天然資源の消費削減や廃棄物の発生抑制につながる取り組み

## 環境マネジメント体制

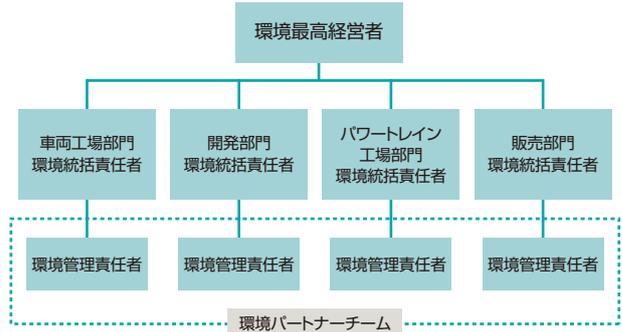
### 「環境マネジメント組織」で 全社の環境計画を策定

UDトラックスは、社長を環境最高経営者とし、各部署の環境統括責任者などで構成する「環境マネジメント組織」を設置しています。この組織は全社の環境管理・保全に関する中長期計画の策定や重要事項の審議・承認などの機能を担っています。各環境統括責任者の下には、環境管理責任者と管理・実行組織を設置し、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO 14001や社内の環境計画に基づいた環境活動を推進しています。

さらに、トップマネジメントから従業員、設備保守などを担う関係者に至るまで、全員がボルボ・グループの企業理念を正しく理解し、「環境マネジメント組織」の方針に沿って環境

に関する課題を関係部門が協力して横断的に解決することを目的とした「環境パートナーチーム」を設置しています。

## 環境マネジメント体制



## ISO 14001 認証の取得状況

### 各部門・拠点を一つのサイトとして 環境マネジメントシステムを運用

UDトラックスは、ISO 14001の認証を取得しています。1998年度に本社・上尾工場が取得後、2009年度までに開発部門、羽生工場で順次取得を完了しました。



現在は、開発部門、生産部門はボルボ・グループの事業部署として、本社部門、営業部門は一つのサイトとして環境マネジメントシステムを運用することで、環境活動計画で定めた目的・目標の達成をめざしています。

## 環境マネジメントシステムに対する内部監査／外部審査

### 運用状況や有効性を定期的に確認

環境マネジメントシステムが適切に機能していることをチェックするために、社内規定に基づく内部監査を毎年定期的に実施しています。監査では、内部監査資格をもつ委員で構成する監査チームが、環境マネジメントシステムの運用状況、社内基準、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。

また、外部機関による環境マネジメントシステムの審査も毎年受審しています。2015年度の外部機関の審査では重大な指摘はありませんでした。

### 事業活動に伴う環境影響

## 製品ライフサイクルの全段階で 資源の有効利用と環境負荷低減を推進

UDトラックスは、開発・設計から廃棄・リサイクルまで製品ライフサイクルのすべての段階で環境負荷分析を行い、環境に配慮した製品を提供するとともに、資源の有効利用と環境負荷の低減に取り組んでいます。

### 製品環境性能の向上

## 環境性能の向上につながる 技術の開発に注力

UDトラックスは、燃料消費を抑制する技術や排出ガスを

クリーン化する技術の開発、環境負荷物質管理の徹底などを通じて、総合的な環境保護に努めています。

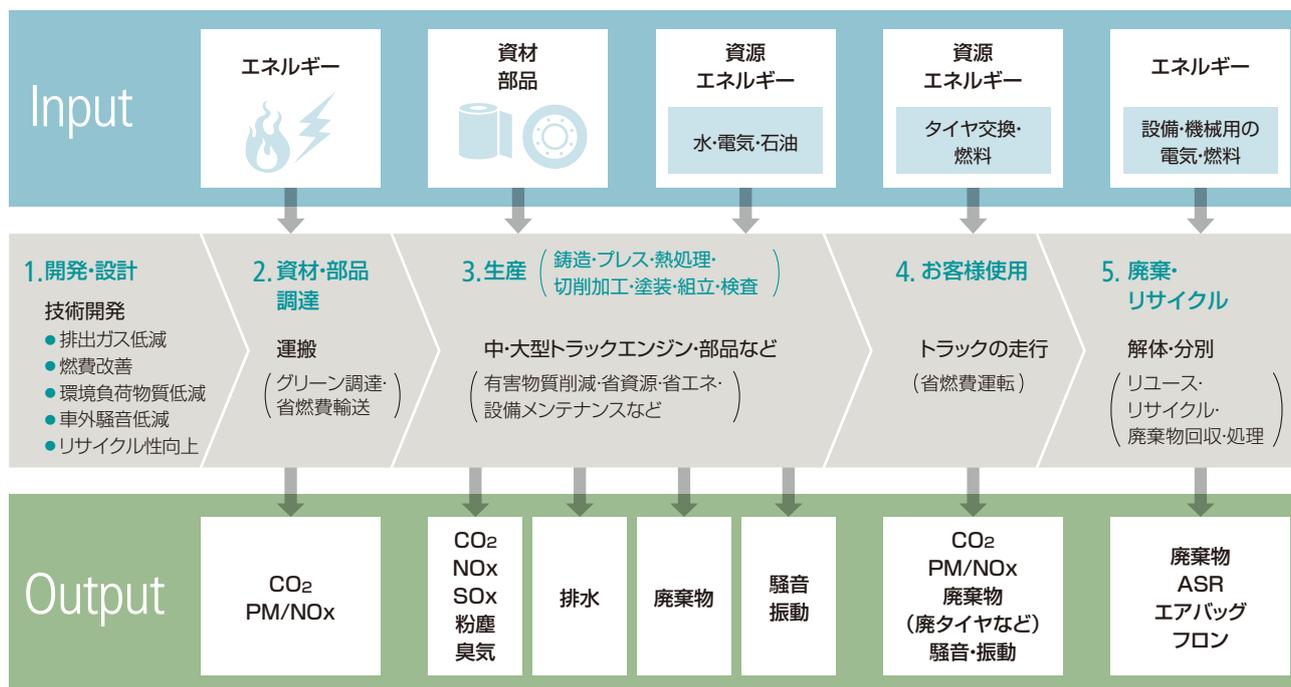
### 省エネルギー・地球温暖化防止

## 燃料消費を抑制する技術の開発

トラックの燃料消費は、事業者にとって経営上の大きな負担となるだけでなく、CO<sub>2</sub>排出の主な要因ともなります。そこで、UDトラックスでは燃料消費の抑制を環境活動における最大の課題と位置づけ、長年にわたって着実に改善を図ってきました。国内では各メーカーが2015(平成27)年度に達成すべき「平成27年度重量車燃費基準」が施行され、車両重量などのカテゴリーごとに目標燃費値が設定されています。2014年度販売実績において、目標燃費を達成した車両台数は販売台数の96.1%を超え、平均燃費値においては企業目標を達成しました。

また、車両の燃費改善とともに、トラックドライバーに省燃費運転につながる知識と技術をレクチャーする「エコドライブ講習会」を全国各地で継続的に実施しています。

### マテリアルフロー



トラックのライフサイクルでの環境負荷は、ほとんどが使用中に発生するCO<sub>2</sub>と排出ガス(PM・NOx)です。

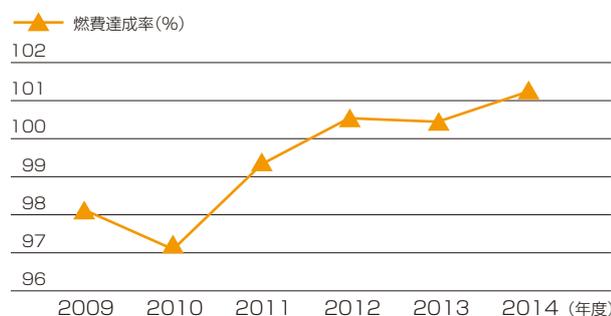
## 燃費改善技術

エンジンやトランスミッションなど駆動系の性能向上や、走行状態のきめ細かな制御など、燃費を改善するさまざまな先進技術を積極的に搭載することにより、大型トラック「クオン」の主要車型の約7割において「平成27年度重量車燃費基準」の目標値に対して105%以上を達成しました。

## 大型トラックに採用している主な技術

エンジン	トルク特性の改良／フリクション低減／アイドルストップ装置のオプション設定
駆動系	直結型ESCOT(トップ段ギヤ比をオーバードライブ型から直結型に変更)／ファイナルギヤ比変更／新型エコノミーE-Dモード(アクセラレーションリミッタおよびソフトクルーズコントロール機能の追加)／ESCOTロール(精力走行時の速度低下制御)／電子制御エアドライヤ(エアコンプレッサ作動の最適化)

## UDトラックス燃費改善状況



2015年基準値を100%とした場合の  
中型・大型トラック総販売台数による加重調平均

## エコドライブ講習会

2007年から、トラックドライバーを対象にUDインフォメーションサービス(UDIS)を活用した「エコドライブ講習会」を開催しています。毎回10名~15名のドライバーが参加し、実際のトラックを使った運転操作や減速運転などの実技講習を通じて、省燃費運転につながる知識と技術の習得をめざしています。受講後は燃費が平均で18%向上したとのデータが得られており、お客様の燃費向上とCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています。2015年は全国103カ所(2014年182カ所)で開催し、1,384名(同3,103名)のドライバーの皆様が参加しました。

## 化学物質の管理

### 製品に含まれる化学物質の管理を徹底

化学物質の製造・輸入・管理、環境配慮設計、リサイクルなどに関する法規制や産業界の自主基準の遵守を前提に、自動車業界の統一化学物質リスト(GADSL)に基づき、製品に含有される化学物質の管理に努めています。

## 化学物質管理の取り組み

### 開発・設計段階

- 各工程でサプライヤーを含めた化学物質の使用状況を確認
- 必要に応じてIMDS<sup>※1</sup>へ情報を登録

### 生産段階

- PRTR制度<sup>※2</sup>に基づき毎年届出・報告を実施
- 社内基準として運用し有害物質代替活動を推進

※1 世界各国の自動車メーカーが環境保全を目的に共同で運営している材料データベース。

※2 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

## 事業活動に伴う環境負荷の低減

### 省エネルギー・地球温暖化防止や 廃棄物削減に注力

UDトラックスは、省エネルギーアイテムの発掘や優良活動の水平展開などによるCO<sub>2</sub>排出量の削減、ディーラーと一体で取り組む廃棄物削減など、事業活動に伴う環境負荷の低減を積極的に進めています。

## 省エネルギー・地球温暖化防止

### 全社でCO<sub>2</sub>排出量の削減活動を推進

ボルボグループは、2011年にWWFの「クライメート・セイバーズ・プログラム<sup>※</sup>」に自動車メーカーとして初めて参加し、グループの生産工場から排出するCO<sub>2</sub>量を2014年までに2008年比12%削減する目標を掲げていましたが、2013年に目標を大きく上回る20%の削減を達成しました。

この結果を受け2015年からは、2020年までに2013年比8%削減する目標を新たに掲げ活動を加速させています。



UDトラックもこの削減目標達成に向け、各部門の代表者で構成する「省エネルギー推進会議」などにおいて、具体的な活動項目やアクションプランを検討しています。

またUDトラックスでは、「2013年度のCO<sub>2</sub>排出量については1990年度比39%の削減」という目標を掲げ、その成果として当初目標を大きく上回る68.9%の削減に成功しました。今後は、生産量の増加に伴う排出量を含め、削減を進めていきます。

※WWFと企業のパートナーシップで温室効果ガス削減を進めるプログラム。

### 省エネルギーに配慮した新本社ビルの建設

2015年7月に竣工した地上10階建て鉄骨構造の新本社ビルには、最新の免震構造に加えて、さまざまな環境負荷低減機能を取り入れています。

その一つがビルの外観です。外壁に凹凸を施すことで、庇効果によって日射を制御し、空調負荷を低減しています。また、窓ガラスに熱を反射・遮断するLow-Eガラスを採用し、オフィス空間の採光や眺望を確保しながら、熱負荷の軽減を図っています。このほか、ワーキングエリアを北側に、トイ

レやエレベーターを南側に配置し、窓面積を抑えることで日射の影響を最小限にとどめています。

これらに加え、照明には最新のLED照明システムを採用しました。人検知センサーによって点灯、減光、消灯を自動的に制御して省エネルギーに貢献しています。

### 廃棄物削減

#### 製品廃棄時の環境負荷を低減

製品ライフサイクルで最も多く廃棄物が発生するのは、ディーラーでの製品廃棄時です。そのためUDトラックスでは廃棄物管理体制を構築し、2014年から廃棄物分別管理に関する社内処理基準を各ディーラー拠点に導入しています。各ディーラー拠点では、これに従って専用の設備を設置し、廃棄物を細かく分別しています。

開発段階においては、バンパーの3分割化など、部品の解体のしやすさを考慮した設計を行っています。生産段階では、最終処分量の削減を目標に、廃棄物の発生抑制と再資源化に取り組んでいます。2014年度においては、焼却残さの再資源化や廃棄物の分別活動などを推進し、廃棄物最終処分量を1990年度比で99.8%削減。また、再資源化率も全社で99%以上（ゼロエミッション）を維持しています。さらに、流通段階ではサービスパーツの発送に使う梱包容器を再利用できるよう、リターナブル化を進めています。

## Voice エコドライブ講習会参加者の声

### 実践的なエコドライブ技術を習得

この「エコドライブ講習会」では、燃料消費量をはじめ実際の走行データを正確に把握でき、しかも車両の特性や日常点検のポイントまで指導していただけるので、非常に効果的なプログラムだと考えています。ドライバーからも、メーカー講習はとても緊張感があり、技能や知識の習得に大いに役立っている、といった声が多く聞かれます。

当社が掲げている“燃料消費率1%以上削減”という目標を

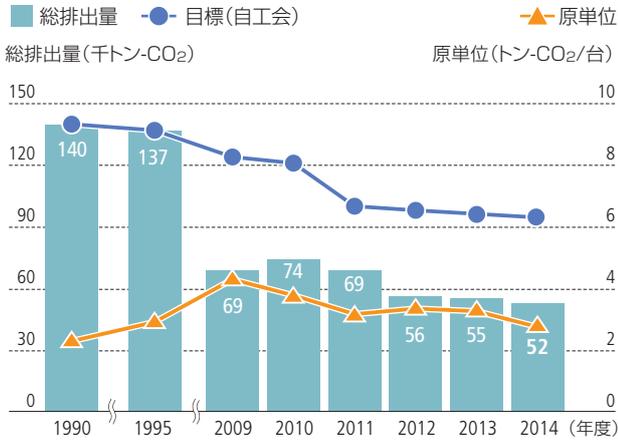
現するには、講習会で習得したスキルを日々の業務で実践することが不可欠です。しかし、“1%”という数字を示すだけでは限界があり、より具体的な目標設定の仕方や指導法が必要となります。その意味で、この講習会にはさまざまなヒントがあります。さらに、環境に対するドライバーの意識を高めていくことも大きな課題ですので、今後も講習会を通じて多くの収穫を得ていきたいと考えています。



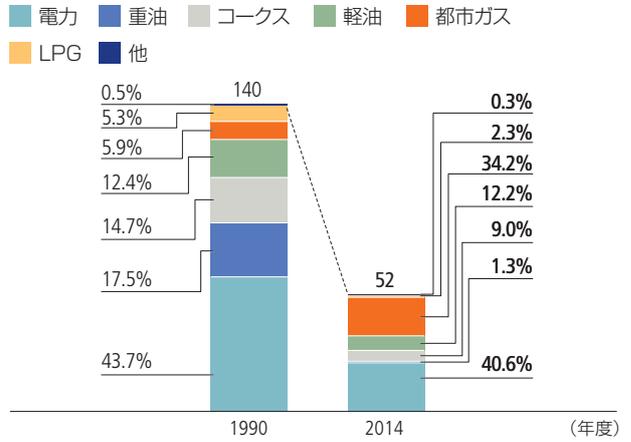
日本通運株式会社 業務部 次長(物流技術・車両) 佐藤 武志 さん

エネルギー／CO<sub>2</sub>関連データ

CO<sub>2</sub>総排出量・原単位



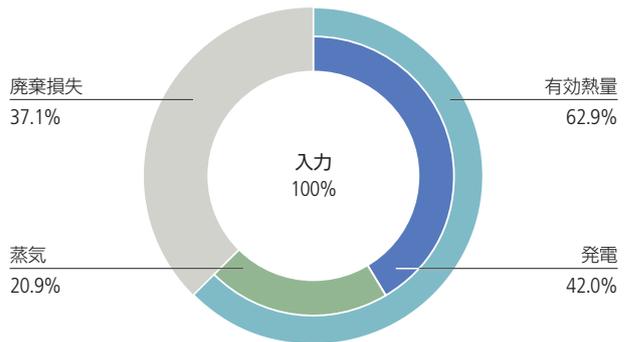
エネルギー別CO<sub>2</sub>排出量



電力使用量(上尾・鴻巣・羽生工場・群馬部品センター合計)



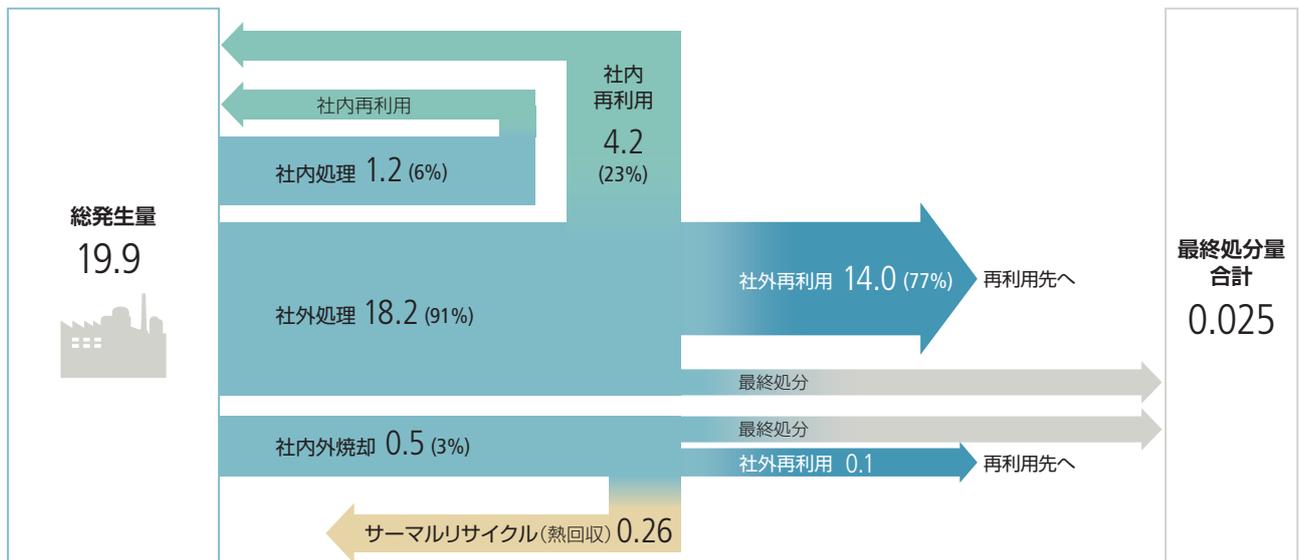
大型天然ガスコジェネレーションの熱収支(2014年度)



※2014年度の鴻巣工場は4～12月までの数値を計上しています。

資源関連データ

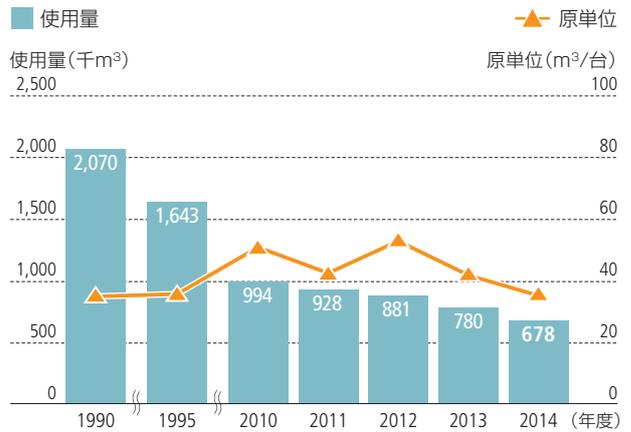
廃棄物処理状況(2014年度)(単位:千トン)



廃棄物最終処分量(埋立量)／再資源化率



使用水量・原単位



※自工会廃棄物分科会の取り組みに準拠し、2004年度より目標値を見直しています。

PRTRデータ

上尾工場(2014年度)

単位:kg/年(ダイオキシン類はmg-TEQ/年)

区分	政令番号	化学物質名	取扱量	排出量			移動量 廃棄物	除去 処理量	リサイクル	消費量 (製品)
				大気	水域	土壌				
特定第一種指定 化学物質	243	ダイオキシン類	65.44	7.64	0	0	57.8	0	0	0
第一種指定 化学物質	1	亜鉛の水溶性化合物	2,730	0	27	0	0	792	0	1,911
	53	エチルベンゼン	36,953	16,119	0	0	0	3,422	17,367	45
	80	キシレン	68,136	23,623	0	0	0	3,735	40,522	255
	296	1,2,4-トリメチルベンゼン	3,585	2,203	0	0	0	1,062	0	320
	297	1,3,5-トリメチルベンゼン	8,655	1,093	0	0	0	108	7,397	57
	300	トルエン	13,253	10,429	0	0	0	2,265	161	398
438	メチルナフタレン	1,540	22	0	0	0	0	0	1,518	

鴻巣工場(2014年度)

単位:kg/年

区分	政令番号	化学物質名	取扱量	排出量			移動量 廃棄物	除去 処理量	リサイクル	消費量 (製品)
				大気	水域	土壌				
第一種指定 化学物質	31	アンチモン及びその化合物	1,485	0	0	0	30	0	0	1,455
	37	ビスフェノールA	4,721	0	0	0	0	0	0	4,721
	53	エチルベンゼン	2,943	2,936	0	0	0	0	0	7
	80	キシレン	4,396	4,326	0	0	0	0	0	70
	87	クロム及び3価クロム化合物	18,030	0	0	0	361	0	0	17,669
	258	ヘキサメチレンテトラミン	20,676	0	0	0	0	0	0	20,676
	277	トリエチルアミン	5,927	0	0	0	0	0	0	5,927
	296	1,2,4-トリメチルベンゼン	1,500	173	0	0	0	0	0	1,326
	300	トルエン	8,270	8,210	0	0	0	0	0	60
	308	ニッケル	1,219	0	0	0	24	0	0	1,195
	349	フェノール	1,662	0	0	0	0	0	0	1,662
	412	マンガン及びその化合物	44,260	0	0	0	6,144	0	0	38,116
	438	メチルナフタレン	1,439	7	0	0	0	0	0	1,432
	448	メチレンビス(4,1-フェニレン) =ジイソシアネート	4,680	0	0	0	0	0	0	4,680
	453	モリブデン及びその化合物	4,425	0	0	0	89	0	0	4,337

※特定第一種指定化学物質は取扱量0.5トン以上、その他の物質は取扱量1トン以上の物質を記載しています。

※羽生工場は該当物質の取り扱いはありません。

環境施設の2014年度環境測定データ

(環境データ測定期間：2014年4月～2015年3月)

上尾工場

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 COD:化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下 規制値の( )内は日間平均	排水量	m <sup>3</sup> /日	—	7,484	0	1,504
	pH	—	5.8~8.6	7.8	6.6	6.7
	BOD	mg/ℓ	25 (20)	6.7	ND	3.1
	COD	mg/ℓ	160 (120)	10.5	3.4	7.5
	SS	mg/ℓ	60 (50)	5.0	ND	1.3
	N-Hex(鉱油)	mg/ℓ	5	<2.5	ND	0.2
	リン	mg/ℓ	8	0.4	ND	0.08
	窒素	mg/ℓ	60	4.2	1.0	2.5
	亜鉛	mg/ℓ	2	0.2	ND	0.05
	フッ素および化合物	mg/ℓ	8	<0.8	<0.8	<0.8

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物	温水ボイラー	NOx	ppm	150	89	84	86.5
	コージェネ(ガス機関)	NOx	ppm	200	140	110	125
	乾燥炉1	NOx	ppm	230	30	15	23
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.2	0.002	0.001	0.001
	乾燥炉2	NOx	ppm	250	6	6	6
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.35	0.005	0.005	0.005
	焼却炉	NOx	ppm	180			
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.1			
		塩化水素	g/m <sup>3</sup> N	0.2			
		ダイオキシン	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	10			

羽生工場

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 COD:化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下 規制値の( )内は日間平均	排水量	m <sup>3</sup> /日	—	49	0	8
	pH	—	5.8~8.6	7.4	6.8	7.1
	BOD	mg/ℓ	25 (20)	1.7	ND	0.6
	COD	mg/ℓ	160 (120)	3.9	2.2	2.6
	SS	mg/ℓ	60 (50)	ND	ND	ND
	N-Hex(鉱油)	mg/ℓ	5	ND	ND	ND
	窒素	mg/ℓ	60	20	1.7	14.5
	亜鉛	mg/ℓ	2	0.2	ND	0.1

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物 SOx:硫黄酸化物	ボイラー重油 (1.2トン)	NOx	ppm	180	95	69	85
		SOx	m <sup>3</sup> N/h	0.493	0.006	0.002	0.004
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.3	0.005	0.003	0.004
	冷温水機	NOx	ppm	180	74	74	74
		SOx	m <sup>3</sup> N/h	0.531	0.011	0.001	0.006
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.3	0.004	0.003	0.004

## 群馬部品センター

水質	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
BOD:生物化学的酸素要求量 SS:懸濁物質 ND:定量下限以下	排水量	m <sup>3</sup> /日	—	31	0	7.0
	pH	—	5.8~8.6	7.2	6.5	6.9
	BOD	mg/ℓ	80	6.5	2.7	5.1
	SS	mg/ℓ	20	6.0	1.0	3.7
	N-Hex(鉱油)	mg/ℓ	1	<0.5	<0.5	<0.5

大気	施設名	測定項目	単位	規制値	最大	最小	平均
NOx:窒素酸化物	ボイラー重油 No.1,2,3	NOx	ppm	180	73	49	59
		ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.2	0.001	0.001	0.001

## PCB保管状況

	上尾工場
リアクトル	1,125kg
放電線輪	40kg
コンデンサ	5,823kg
安定器	10,886kg
トランス	17,976kg
遮断器	220kg
汚染物(ウエス等)	10kg
合計	36,080kg

※「トランス」は、トランス本体の筐体重量を含めています。

## ISO14001 認証取得状況

1998年度	本社・上尾工場
2002年度	商品開発部門
2004年度	鴻巣工場 *2015年1月グローバル・コンポーネント・テクノロジー(株)に譲渡
2004年度	羽生工場 *2016年3月ユニキャリア(株)に譲渡
2005年度	株式会社DRD *2013年6月テンプスタッフ(株)に譲渡
2005年度	株式会社テクサス *2013年7月テンプスタッフ(株)に譲渡
2006年度	株式会社エヌテック *2015年3月(株)木原製作所に譲渡
2008年度	株式会社ジャパンビークル *2011年7月UDトラックス(株)に併合
2009年度	株式会社ボルボロジスティクス・コーポレーション・ジャパン *2014年4月UDトラックス(株)に併合

## UDトラックス株式会社

〒362-8523 埼玉県上尾市大字菅丁目1番地  
udtrucks.co.jp